

## 第10回 多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会 要点記録

- 1 日時：令和2年9月11日（金）午後2時から午後4時
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：浜田委員長、保坂副委員長、長倉委員、三輪委員、川村委員、松井委員
- 4 議題：原稿修正依頼、資料編について

### 1 開会

委員長 第10回目の多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会を開催する。

### 2 議題

委員長 本日の配布資料について、事務局より確認及び資料の説明をお願いしたい。

事務局 事務局より、配布資料の確認及び資料1に基づき記念誌作成のスケジュールについて説明を行った。

委員長 それでは、記念誌作成スケジュールについて、何か意見はあるか。  
(特になし)

委員長 それでは、次に執筆者への原稿修正の依頼内容について、多摩市文化振興財団及び事務局より説明をお願いしたい。

財 団 多摩市文化振興財団より、参考資料1、参考資料2に基づき原稿の修正の依頼について説明を行った。

委員長 それでは、執筆状況及び執筆原稿の追加について、何か意見はあるか。

委 員 ひらがなだと平易な印象である。日本人だからこそ、漢字を使ったほうがよいのではないか。

副委員長 長倉委員の意見に近いが、漢字をつかったルビを振るのはどうか。原稿の中で、歴史の用語的に馴染みが薄いものが多々出てくる。ただ、説明するには語数の限りがある。そのため、用語にルビを振り、読みやすくしてあげたらどうか。

委 員 調べるときにルビが振っていると調べやすくなる。ただ、あまりルビが多いのは読みづらいのではないか。

- 副委員長 特にキャプションは文字が小さいが、専門用語が多くある。しかしルビを振るとより読みづらくなってしまう。本文の歴史部分については、特に慣れない専門用語にルビがあってもいいのではないかと。
- 委員長 折衷案として、「鯉のぼり」としてルビを振るような方向とする。
- 財 団 専門用語にもルビを振っているようにする。
- 副委員長 学術用語の類については、高校生程度の副読本を目指しているので、ルビを振っていくのが良いのではないかと。学術用語を言い換えると字数が更に増えてしまうので、学術用語は学術用語として意味が有る言葉なので、記念誌内でも使用していくのが良いと考える。
- 委員長 八月に原稿を確認して、印象としては歴史分野については表現が固いものもあるので、今後の修正の中で対応していくものかと考えている。また、4章の「初期入居の人々の暮らし」の部分については、回顧録的な印象を受けた。そのため、編集の手法としてコラムにしても良いのではないかと。そのほか意見はあるか。
- 委 員 写真が不鮮明なものがある。重要な写真なので、画素が粗くてもあえて載せていることをコメント等で入れる必要があるのではないかと。
- 委員長 写真の解像度は、現在はどの程度のものなのか。
- 財 団 現在は 100dpi で印刷の際は 300dpi まで行くので、画質はもっと良くなる想定である。
- 委員長 ほかに意見はないか。
- 特になし
- 委員長 では、この内容で執筆者へ修正の依頼をするものとする。次に、次第の4 資料編について多摩市文化振興財団より説明をお願いしたい。
- 財 団 多摩市文化振興財団より、参考資料1、参考資料3に基づき資料編作成状況について説明を行った。
- 委員長 それでは、資料編について、何か意見はあるか。
- 委員長 ページ数も限られているので、載せる方法が悩ましいところである。多摩地域全体の統計の課題として、戦前の調査統計があまり残っていないことがある。各委員の意見としてはどうか。
- 副委員長 たまプラスのデータは面白いと思った。経年にすると、市の歴史の中で

の動きがよく分かるので良いのではないか。この冊子全体の写真を多用して、なるべくわかりやすく、皆さんに興味を持ってもらう趣旨であるので、参考文献を充実していただき、本編自体はわかりやすいものにしていただくと、皆さんに関心を持ってもらえるのではないか。

委員長                   このたまプラスのデータは、2016年以外のデータはあるのか。

事務局                   ない

委員長                   記念誌という性質上、グラフィックなものの方が分かりやすく、良いのではないか。

委員                    たまプラスの形式を使用するのであれば、2020年の数字にするのが良いのではないか。また内容を精査しないと、項目が多すぎるのではないか。P.180のデータも各年にする必要はないのではないか。

委員                    自分は数字を見て、こんなに変わってきたのか、と興味を持つ。しかし、5年おきでも変化が分かるので、5年おきでも良いのではないかとも思う。また棒グラフもわかりやすいと思う。

委員                    自分はグラフだけだとわかりにくいかなと思っている。人口に関しては表の方がわかりやすいのではと感じた。自分の生まれた年の人口がどれくらいだったのか、気になってみてしまう。P.182,183のように可視化されているのも、見やすいので是非このような形にしていいただきたい。年表については、日付の記載があるものとないものがあるので、わかりにくいと感じた。

委員                    ニュータウンについての表記と、多摩市の表記が入り混じっているので、精査の必要があるのではないか。

委員長                   年表は、ソフトの面について、まだ十分ではないのでその内容を入れたほうが良いのではないか。

財 団                    年表に、日付は入れない方向で整えたほうが良いか。

委員                    東日本大震災3.11のように日付まであったほうが良いものもあるのではないか。

委員長                   日付がわかるものについては、日付をいれてもよいのではないか。人口については、市民の皆さんが一番興味あるので、松井委員の意見にあったように表にしても良いのかもしれない。

副委員長               松井委員のいうとおり、生まれた年を知りたいというのはなるほどと思う。人口は表にするとわかりやすく、見やすい。

委員長 人口密度や市の予算、犯罪件数などの項目の経年の変化を追えたら興味深いのではないかと思う。

財 団 50年前と今を比べるのも面白いのではないか。

委員長 今年の統計結果が反映できるのであれば、反映したほうがよいのではないか。また、駅の乗降者数については、すべての駅をいれるとスペースに限りがあるので、情報の取捨選択をして行くのが良いのではないか。なお、資料編は全部で何ページを想定しているのか。

財 団 4ページとなる。オーソドックスなものも掲載したほうが良いか？

委員長 市民が興味を持てるようなものが良いのではないか。産業であれば、工業や商業も入れるべきであるし、たまプラスの表現でどれが実際にできるかを選んでいくようになろう。個人的には、土地や気象のところなど50年前と比較したら面白いのではないかと思う。

財 団 たまプラスをイメージして、可能なものを作成してみる。委員の中でこれを入れたい、があれば意見として伺いたい。

副委員長 ジャンルの、「働き」「暮らし」「行政」のようなグルーピングして、項目の性質に応じて隔年や推移を見せるようにして変化を追えるように見ても良いのではないか。

委 員 50年前と今を比較するものと、推移をみせることに意味があるものと、データにも種類があると思うので、そこを考慮する必要があるのではないか。

委員長 限られたページで何を入れるかということについては、学校で使ってもらおうという観点から、学校数も入れたいところである。しかし、追加で出てきた学校統廃合の原稿の中で、グラフを使っても良いのではないか。各原稿の中でグラフを使えるものは、その原稿の中で使ってしまおうのが良いか考える。

委員長 ほかに意見はないか。

特になし

委員長 では、今回出た意見を基に、資料編の作成を進めるものとする。次に、次第の5 表紙・紙質について多摩市文化振興財団より説明をお願いしたい。

財 団 多摩市文化振興財団より、表紙・紙質について説明を行った。

